

## 日本ボート協会タレント発掘・育成事業戦略プラン 2018

公益社団法人日本ボート協会

タレント発掘委員会

### はじめに

2014 年以降、日本ボート協会タレント発掘委員会では総勢 5,965 名(2017 年 12 月末現在)を対象にタレント発掘活動を行ってきた。その中で、ワールドカップ女子シングルスカル 9 位などの成績を収めてきた。特に、U19 チームにおけるタレントの割合は年々増加し、2016 年 U19 世界選手権日本代表 13 名のうち 5 名が、2017 年 U19 世界選手権日本代表 3 名のうち 2 名がタレント発掘事業により認定された選手であった。この活動を継続的なものとしていくために、これまで U19 カテゴリーまでで進め切れていなかったタレント発掘活動を U21 カテゴリー、U23 カテゴリーへと継続的な強化を進める必要が出てきた。本戦略プランでは、「将来のオリンピック金メダリストを輩出するための長期的育成の基づくタレント発掘・育成事業の確立」を目指し、その基本的な考え方をまとめた。

### Vision

これまで種目適正型を進めるタレント発掘コンソーシアムとの連携をはじめとしタレント発掘活動を推進し、システム構築を目指してきた。2018 年以降、発掘活動から育成活動へと繋げ、「長期的育成」をキーワードに有望選手を金メダリストにまで繋げられるよう、東京オリンピックまでの 3 年間で、その基礎を確立したい。また同時に、種目最適型のタレント発掘事業を本格展開する。

### Mission

- 1) これまで優秀なタレントを輩出してきたタレント発掘コンソーシアムとの連携を強化し、更にタレント発掘活動を強化する
- 2) タレント発掘コンソーシアムを中心に発掘された選手を育成する舞台を U19 から U23 カテゴリーにまで延長することで長期的育成を可能とする
- 3) U23 カテゴリーにおける育成活動を行うための基礎を固め、将来、シニアチームに

選手を輩出するための長期的育成システムを確立する

- 4) U19 の育成環境はほぼ確立されつつあるため、今後、U21・U23 の育成環境の整備を行う
- 5) これまで中学生を中心にタレント発掘活動を行ってきたが、今後は種目最適型へのシフトを進める。

## Objectives

### タレント発掘活動のさらなる強化

前述したように日本ボート協会では、参加者数で言えば、世界トップレベルのタレント発掘活動を実施してきた。優秀な選手を獲得するためには、数ではなく質を追求する必要がある。各地のタレントコンソーシアムは質という意味では申し分ないレベルにある。これらのコンソーシアムとの連携を更に深める事で、また、他競技との共同トライアウトを実施する事で質を更に高め、高い効果が期待されるタレント発掘活動を実現する。

### 長期的ビジョンによるタレント選手の育成

これまで短期的なビジョンによりタレント選手の早期の成功を推進してきたきらいがある。それは U19 カテゴリーで育成環境が限られていたことにも起因する。育成環境を U23 カテゴリーにまで伸ばすことで長期的ビジョンによるタレント育成を行う。

### U21・U23 育成環境の整備

タレント発掘活動により見出されたタレントは、JOC エリートアカデミーとタレント育成拠点である福井県を中心に育成され、U19 世代においては有力選手のほとんどがタレント発掘された選手となった。つまり、U19 までの育成環境はほぼ揃いつつあると言える。今後、タレント発掘された選手が、U23 カテゴリーに入っていくことになる。U19 と U23 の競技レベルの差は世界的に言っても大きく、国内でも同様に格差がある。この世代の継続的な育成を実現するため、また、U19 世代の選手にオリンピックまでの道のりを示すため、日本ボート協会タレント発掘委員会では U21・U23 という段階的な強化・育成枠を 2018 年度以降設ける。さらに、この U21・U23 世代のためのコーチ・スタッフを配置することで、この世代の育成環境を整える。それにより、発掘されたタレントがシニアまで一貫指導を行うシステムの確立を目指す。タレント発掘された選手が育成され、次世代のメダル候補を生み出すシステムを完成させることで日本ボート協会のタレント発掘・育成システムが完成することになる。今後、2024 年までの間に、タレント発掘・育成システムを完成させる。

### 「シニア・U23 クラス」の種目最適型タレント発掘事業の実施

ボート競技は埼玉県戸田市、福井県美浜町などを中心とした活動地域が限定された競技である。その上、競技適正年齢が高く小学校・中学校レベルではその種目適正についてすべてを見抜くことは難しい、これまで地域タレントを中心として中学生以下の選手の発掘を行い、高校時代に適正な競技としてボートを紹介することでタレント発掘・育成活動を成功させてきた。それにより、現段階で U19 世界選手権日本代表選手の多くがタレント発掘事業から出てきた選手となった。しかし、ボート強豪国のイギリスやオーストラリアでは、U23・シニア選手の発掘を実施し成功を収めている。U23・シニア選手の発掘例としてはイギリスの Helen Glover などは最も有名な例の一つである。Helen Glover の例でもわかるように、ボート競技でワールドクラスを発掘するには、U23・シニアクラスの「種目最適型」を構築する必要がある。現段階では日本ボート協会を含め日本では未だどの団体も実施できていない。日本ボート協会ではそこにフォーカスを置き、これまでの発掘・育成手法を存分に用い「短期育成型タレント発掘・育成事業」を実施する。

## Strategies

### 5 年後に世界トップレベルの選手を輩出するための長期的育成システム

これまで中学生を発掘し、高校の 3 年間で育成を行い、その後は関係諸団体に育成を委ねて来た。そのため、高校 3 年間でいかに成績を残すかが、その選手のボート競技における将来を考えた時、重要であった。しかし、それは現場へ選手の育成を強いる結果となり、ポテンシャルを持った選手をシニアチームへ送り込むというタレント事業の一貫した目的から反する面もあった。その点を踏まえ、選手のポテンシャルを見極めながら、U19 以降の世代にもタレント発掘・育成を継続する手立てを取る。

### 国内での長期的な育成

これまでの 4 年間で福井県・戸田市を中心とした育成環境は揃いつつある。ボート競技は成功までに時間のかかるスポーツである。充実した育成環境のもと国際レベルに達するまでの間、しっかりと国内を中心に長期的視野に立った育成が必要だと考える。

#### 1) 十分な育成後の国際大会への派遣

十分な実力がないままに国際舞台へ立たせることで、選手のモチベーションの低下を引き起こすという考えが、National Team Director の Xavier Dorfman によって持ちこまれ、U19 からシニアチームにいたるまでその考えで選手育成・選考を行っている。

ボート競技は最大酸素摂取量の絶対値が競技成績と密接することから、成功するまでの期間が比較的長い競技である。科学的なデータからも競技力のピークは 25 歳以降に出現する。従って、U19 レベルでタレント育成期間を切るよりも U23 カテゴリーにまで延長させる方が有効である事が容易に想像付く。また、そうする事で早期の成功を求める必要が減る。日本ボート協会としては、そうした長期的育成を可能とする考え方を日本中に広め、そのシステムを確立していく。十分な実力がついたら確認された段階で、海外を拠点とした育成活動へと移行させる。

## 2) アジア・オセアニア地区との連携

現在、海外での育成事業は欧州で行われている。航空機での移動・時差調整を考えると、1 回の遠征で 10 日以上を無駄にする。この無駄を削減するためにも、韓国・中国・香港・ニュージーランドといったアジア・オセアニア地区に海外拠点を作る事が重要だと考える。特に、ニュージーランドは世界最強の強豪国の一つである。ニュージーランドでの拠点形成により、常に世界のトップを視野に入れながら育成ができる。

## 3) 学業との両立

諸外国の選手育成で重要視されているのは、学業との両立である。特に、欧州諸国と日本との間では教育システムの差もあり、教育機関の考え方の差もあるが、少なくとも日本ボート協会としては、タレント性のある選手が、将来生きていくための基礎を確立すべく十分な教育をしっかりと受けさせた上でボート競技に専念できる環境を整えたいと考えている。エリートアカデミーもその考えにそったシステムの一つであると考えている。

## 4) U21 システムの導入

日本でもサッカー競技などでは細かい年代別の育成システムが確立されているが、ボート競技においても、オーストラリア・ニュージーランドなどでは U21 枠が独自に制定されている。成長までに時間のかかるスポーツにおいては段階別のシステムを作成する事が有効だと考える。U19 と U23 での競技力の差を考えると、継続的な育成を考えた際、U21 枠は最低限必要な強化枠であると考えている。日本ボート協会でも新たに U21 枠を創設し、ポテンシャルの高い選手を選抜し、段階的育成システムを確立したい。

## 5) U21・U23 育成拠点整備

U19 までは高校の強豪チームを基盤に育成環境を整備した。この整備は 2017 年度で概ね整う。2018 年度以降は、U21・U23 世代の育成拠点を整える必要がある。U21・U23 世代の多くの選手は大学に所属している。大学の強豪チームを育成拠点の一つとし、拠点形成を行う必要がある。戸田・瀬田などの強豪チームがその対象となると考

えられる。各チームと協議を進め、育成拠点形成を進める。また、同時に国内のトップコーチ・国外のトップコーチを招聘し配置することで、この世代の育成基盤を完成させる。

#### 6) 身体的能力を有した種目転向選手の発掘

前述したように、U23・シニア選手の発掘例としてはイギリスの Helen Glover など是最も有名な例の一つである。現在、日本のナショナルチームでは、数名が競技期間中にその才能を見出された選手はいる者も含め、タレント発掘事業からの選手は未だ数名いるのみである。しかし、イギリスではナショナルチームの 6 割がタレント発掘事業により見出された選手である。そして、その多くは、「種目最適型」を含めた U23・シニアクラスのタレント発掘事業からの選手である。日本でも、同様に、シニア・U23クラスの地域クラブに埋もれている選手や種目最適型の種目転向選手を発掘することで、優秀な選手をシニアナショナルチームへ送り込むことを目指す。

### Specific Strategies

#### U21・U23カテゴリーの育成選手選抜

従来のランキングシステムによる選考のストレスは、選手・指導者にとって、非常に大きい。U19カテゴリーで、U19世界選手権で一定レベル以上の成果を求めるがあまり、この世代に必要なトレーニングやその他の要素を重要視することなく、過度なトレーニングに頼る傾向があった。日本ボート協会タレント発掘委員会では、この現状を打破するため、フィジカルテスト、水上での適正を見極め、フィジカル、テクニク、メンタル面でのポテンシャルの高い選手をU19世代からピックアップし、U21・U23世代にまで継続的に育成を行う。それにより、シニアカテゴリーへ優秀な選手を輩出する。

ポテンシャルの見極めに対しては以下の項目を用いる。

・ Rowing Ergometerでの2 mmol/L及び4 mmol/L時の出力

・ Wattbike 3min testでの平均出力

・ 身長

・ 選考レースなどのレース結果

それぞれの基準は以下の通り

#### Rowing Ergometer 2 mmol/L及び4 mmol/L時の出力

男子 3.6 W/Kg@2mmol/L、4.3 W/Kg@4mmol/L

女子 3.3 W/Kg@2mmol/L、3.5 W/Kg@4mmol/L

#### Wattbike 3 min Testの平均出力

男子 6.3 W/Kg (75kg換算で475 W)

女子 5.4 W/Kg (60kg換算で325W)

#### 身長

男子 175cm以上

女子 165 cm以上

#### タレント発掘基準の改訂

これまでタレント発掘基準にWattbikeの3 min Testを用いてきた。発掘してきた選手の現状を鑑み、これらの基準を改定する。

13歳以上 女子 4.4 W/Kg (設定抵抗値 3) /男子 5.3 W/kg (設定抵抗値 5)

15歳以上 女子 4.8 W/Kg (設定抵抗値 4) /男子 5.7 W/Kg (設定抵抗値 6)

17歳以上 女子 5.0 W/Kg (設定抵抗値 4) /男子 5.9 W/Kg (設定抵抗値 6)

19歳以上 女子 5.4W/Kg (設定抵抗値 5) /男子 6.3 W/Kg (設定抵抗値 7)

23歳以上 女子 5.6W/Kg (設定抵抗値 5) /男子 6.7 W/Kg (設定抵抗値 7)